

ほうきぼし
彗星の事

彗星は古より怪異の星とし 或ハ水旱 刀兵あるの兆とし 国家の

荒廢を示す杯と無謂の妄説を唱へ 人々大に恐懼しものなりしが

彗星も皆夫々の軌道ありて 全く日輪の周囲を運行する星の一種類にて

其数は未だ慥ならずといへども紀元以来五百余を発見したりと

其内百三十許は其現ハるゝ期限道筋も略しれたるに 七十六七年目に

出るもあり 四年目に顕ハるゝもあり 又は二千年三千年を経て出るも

あり 皆夫々の期限ありて 或は横より来るもあり 真直に来るもあり

又日輪の側を廻るもあり遠く往くもあり 又体ありて尾なきもあり

尾ありて体なきもあり 只一尾を曳くもあり又六尾を曳くもあり

千七百四十四年に顕ハれたる彗星は六尾を曳きて 其形ち殆ど扇子を

開きたるが如しと 又彗星の早さも他の惑星の如く日輪に近寄れば愈々

烈しく其尾の光輝大にして長く常に頭を日の方に向け 日を離るゝに

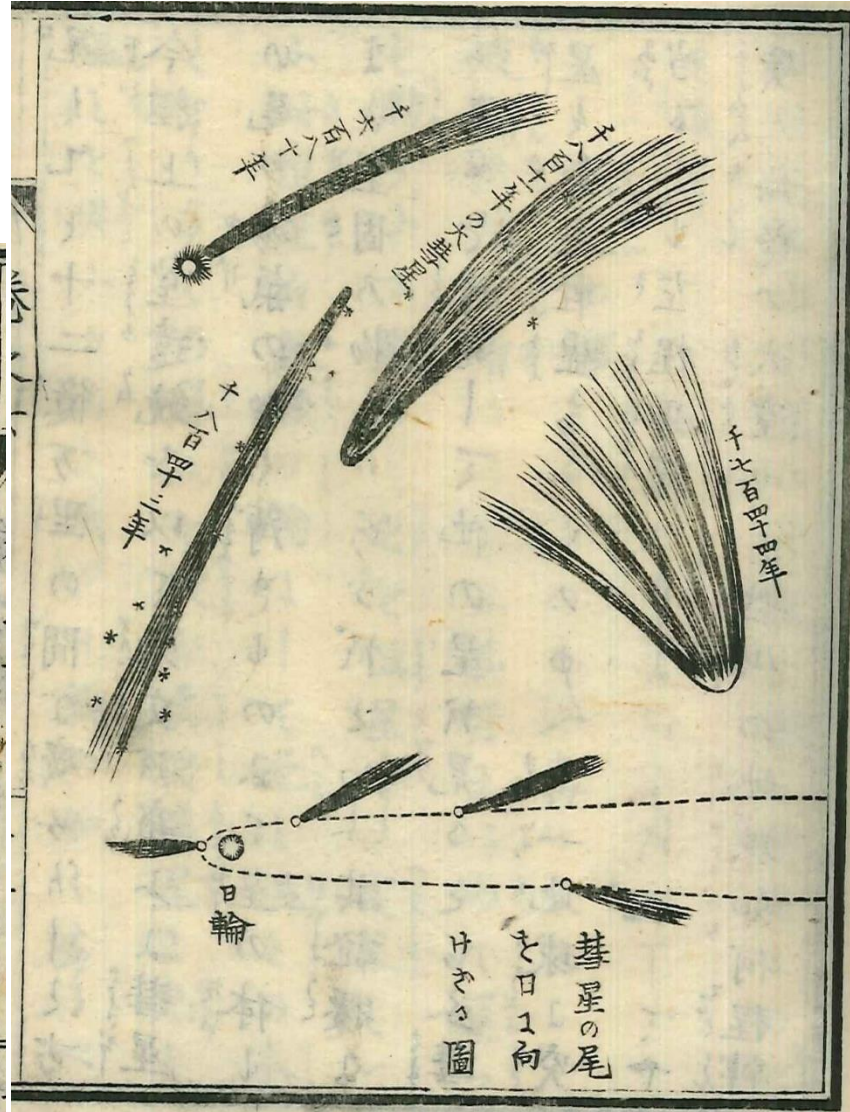
随て尾も次第に短縮す 千六百八十年に現ハれたる彗星は一時に

八十八万里を運動せしと 又其尾にも甚だ長きものありて此年に

現ハれたる星の尾は凡そ十二億万里の間に廣がりしと方今極上の

望遠鏡を以て天文を窺ふに彗星の尾ハ湯気の如く薄きものにて星の

体もまた堅固の物にハあらずといふ 其證據には其尾を透光して他の星



を見るといふ 彗星は斯く軽虚なるものゆへ萬一地球に突当るとも
つぎあた
ま 左程恐懼べきにあらず 況してや廣大無邊の大空中に些少の地球如何程
いかほど
さほどおそる
おうへん 轉回すとも其彗星の往返に萬々突当るの恐れなし
まんまん
まんいち

